

今年も進む町づくり

下水・学校など生活関連事業

新年を迎え、今年も区内のあちこちで、建設のつち音が響いています。
さわやかな住環境をつくる下水道工事、子供たちが勉強しやすい環境をつくる老朽校舎改築、新しい横浜の玄関に生れ変わる横浜駅東口再開発、都心の交通緩和を図る尾張屋橋架替工事など、どれも大切な事業です。今回は、これらの事業を、写真で見ましょう。



久保幹線下水道工事も急ピッチ



区内の水洗化のカギをにぎる久保幹線は、戸部駅ガード下の開削工事と浜松町交差点から戸部駅の間をシールド工法により掘削工事中。昭和55年度末完成を目指しています。



目で見える西區



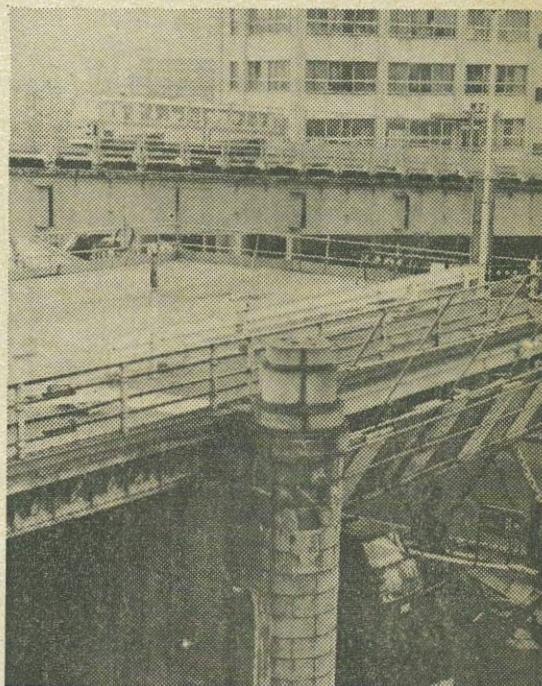
市では、老朽化した鉄筋校舎を5カ年計画で改築します。区内の対象校は、小学校5校、中学校3校。このうち、東・戸部小学校、老松中学校の3校は、昭和56年3月完成予定。

老朽鉄筋校舎を5カ年計画で改築

50年ぶりに新しくなる尾張屋橋



尾張屋橋架替工事は、昭和55年度末完成予定で進められています。新橋は、総巾員21m、両側には3mの歩道ができ、4車線の橋梁になります。



地下街などが11月オープン予定



横浜駅東口総合開発が急ピッチで進められています。各種工事のうち、地下街及び地下駐車場は11月完成予定。また、駅ビルの完成、東西自由連絡通路の一部開通も同時期に予定されています。

